支那猥談

桑原隲藏

青空文庫

一

吾が輩は今支那の時事問題について格別の意見をもつて居らぬ。それに新春早々に當つて、堅苦しい論文より幾分氣樂な隨筆の方が却つて似付かはしい心地もするので、標題の如き支那猥談を草することにした。猥談は要するに猥談であるが、その猥談の中にも、若干支那及び支那人に對する理會を助け、日支の外交上參考に資すべき材料を發見し得るかと思ふ。

支那は謎の國である。誰人も支那の現在及び將來は難解といふ。これは事實である。されどその謎といひ難解といふ中に、一方では支那そのものが難解であるに加へて、他方では之を取扱ふ研究者側にも不行屆の點があつて、難解のものを一層難解に陷らしむる實情がないでもない。支那にも歷史がある。世界の何國よりも長い歷史をもつて居る。この歷史を無視して支那を十分に理會し得る筈がない。

所謂支那通と稱し、若くば稱せらるる人達の多數は、この方面の用意に缺くる所があつて、謎の支那を一層難解に陷らしむるのではなからうか。彼等の多數は現在若くば最近十數年位の限られた智識や報告によつて支那を解釋せようとする。そこに弱點があるまいか。現在の事情を明かにすることは勿論必要であるが、現在のみに即して長い過去を閑却してはならぬ。過去を離れた現在の事情のみから歸納した斷案は、基礎が薄弱を免れぬ。現在の事情は過去の智識

に照らして、始めて完全に了解することが出來、過去の智識は現在の事情を明かにして、始めて有效に活用することが出來る。温故知新が支那及び支那人を十分に理解する一良法と思ふ。この猥談が若し温故知新の一助となり、猥談が必ずしも猥談のみに終らなかつたならば、望外の幸である。

二

去る大正十二年五月六日に突發した臨城事件、即ち津浦鐵道の臨城驛（山東省の西南部）附近で、約一千の土匪が通過の列車を襲撃して、多數の乘客を掠奪し、殊に乘合せた英米等の諸外國人二十餘名を捕虜にした事件は、頗る世界各國を驚殺させた。パリにワシントンに、民國の顧維鈞氏等が先頭に立つて、支那の覺醒を大呼宣傳した直後ではあり、支那の覺醒に多大の信頼を置いた諸外國人、就中もつとも支那を買被つて居つた米國人等は、この現實の暴露に狼狽し喫驚（びつくり）したのは無理でない。彼等がこの列車に一人の日本人も便乘して居なかつたといふ偶然の事實に揣摩を逞くして、或は日本人が土匪を指嗾したのではなからうかなどと疑惑を挟んだ者があつたに由つても、彼等の狼狽さ加減が推測される。

併し此の如き事件は支那歴史上尋常の出來事である。殊に臨城附近の山東省西南部一帶の地は、古代から匪盗の叢窟であつた。曹〔州〕濮〔州〕——何れも山東省の西南地方——人とい

へば直に盗賊を聯想する程であつた。かの有名な水滸傳の中心舞臺として世に聞えた梁山泊も、實に此地方に在つた。水滸傳は小説としても、梁山泊の劇賊宋江等の事蹟は當時の事實である。明清時代を通じてこの遺風は改まらなかつた。膠州の徳人（ドイツ人）と黄河の氾濫と曹州の匪徒は、清末山東の三厄と稱せられた。臨城事件は畢竟覺醒したと稱せらるる現代の支那も、その内情は舊態その儘であるといふ一證據を提供したに過ぎぬ。

　無職の窮民が多く、同時に警察の不行屆な支那では、古來土匪や流賊が多い。必ずしも山東の一角に限らぬ。支那政府は少し手剛い土匪や流賊等に對しては、多くの場合、之を退治するよりは先づ之と妥協する。即ち利禄と官職とを以て彼等を誘ふのである。支那の記録にはこの妥協に誘ふことを招安といひ、この妥協に應ずることを歸順といふ。招安とか歸順とか文字は立派であるが、その内實は政府は征伐の危險を避ける爲め賊徒は利禄の安全を得る爲め、雙方妥協するに過ぎぬ。招安や歸順の實例は支那の何れの時代にも見出すことが出來る。それで宋時代から「欲得官。殺人放火。受招安」といふ諺があつた。放火殺人を行ひ、成るべく暴れ廻つて政府を手古摺らせ、然る後ち歸順に出掛けるのが、官吏となる出世法の一番の捷徑といふ意味である。隨分亂暴な諺だが、これが支那の實際である。現に臨城事件を起した土匪の如きも、政府を威嚇して招安に應じ、その六月十二日に首尾よく目的を達し、捕虜を解放すると交換に、一同軍隊に編入せられ、土肥の頭目は旅團長に、以下身分に應じて然るべき軍職に就いて落着して居る。

この匪徒の招安に關して、古來種々の笑話が傳へられて居る。中にも南宋の頃に福建の海賊の頭目の鄭廣といふ者が歸順して、相當の官吏に取り立てられたが、その同僚は皆彼の泥棒出身であるのを輕蔑して、役所の會食の折にも彼一人だけを排斥するといふ風であつた。鄭廣は聖人面する彼の新同僚が、支那官吏の常習として、何れも中飽——袖下（そでのした）——を貪つて居ることを察知して、一日極めて皮肉な詩一首を作つて彼等の廻覽に供した。その詩は、

鄭廣有詩上衆官。文武看來總一般。衆官做官却做賊。鄭廣做賊却做官。

といふので、その意味は諸君は官吏となつて賊を行ひ、僕は賊を行うて官吏となつたので、唯手段に前後の差あるのみで、畢竟同志と稱すべきものなるに、何が故に僕一人を排斥するかといふに在つたから、傷持つ一同は苦笑して、爾後その態度を改めたといふ。

鄭廣が皮肉つた支那官吏の收賄聚斂は天下に著聞して居る。態　事新らしく吹聽するに足らぬ。「爾俸爾祿。民脂民膏。下民易虐。上天難欺」と題してある、所謂戒石の銘が各衙門の正面に刻されてあつても、古來の弊風は少しも改まらぬ。民國以來この腐敗一層を加へたと傳へられて居る。ブランド氏は支那政府が日本を始め諸外國から借り受けた巨額の借款は、その名義の如何に拘らず、大部分は軍閥や議員や官吏の懐中に消え失せたと公言して居る。此等の事情を考へると、目下北京で開催中の關稅會議によつて、首尾好く關稅が增收されても、それが果して支那の內治の改良や國民の福利に資し得るかは、大なる疑問といはねばならぬ。極樂息子達に巨額の遺産を譲り渡した場合の様に、軍閥や職業政治家が、この增收を目當に、一層の

爭鬪や腐敗を助長する危懼がないでもない。萬一此の如きことありては、今回の關稅會議は豫期とは反對に、支那國内の紛爭の種を蒔く結果とならぬとも限らぬ。しかのみならず關稅の増收は、却つて一般支那國民の消費稅を加重する恐がある。されば關稅増收の使途を、嚴重に監視若くば監督することは、支那には氣の毒でも、事情已むを得ざることかと思ふ。

三

支那人の性格や能力に就いて、種々の説が發表されて居る中で、吾が輩はリチャルド（夏之時）氏の支那人の智的能力に關する左の所説に深き共鳴を感ずる。

〔過去に於ける〕支那の教育組織は國民の記憶力を發達せしめた代りに、その判斷力やその推理力を萎縮せしめた。故に支那國民の智識は散漫で表面（うはつら）で、統一を缺き、又徹底して居らぬ。彼等は全然批判的精神をもたぬ。彼等は原因と結果との關係に就いての思慮が十分でなく、又事件の全體を達觀することが出來ぬ。彼等の個人的若くば團體的行動の間に、多量の淺慮と盲信とを認めることが出來る。

此の所説を基礎として、支那の過去や現在を可なりよく了解することが出來るやうに思ふ。

之に就いて憶ひ起されるのは支那の車夫である。現時は知らぬが、今から十年も以前に、北京や天津邊りを觀光した人は、誰も經驗する如く、支那の車夫は客を乘せると、その行先きを

問ひ質さずに、自分勝手の方向に驀進する。若し、不幸にしてその乘客が土地不案内であると、まるで自分の目的とは反對の方向を引き廻され、車夫も無駄骨折をすることが稀でなかつた。同樣の缺陷が支那の學者に着き纏うて、彼等の研究は常に批判が十分でない。支那の學問の中心は經書に在るが、支那の學者は經書の解釋に全力を盡くす。此の如くして通志堂經解とか皇清經解とか續皇清經解とか、經書の解釋は文字通り汗牛充棟の多きに達するが、その經書の眞僞、さてはその製作年代等に就いては、彼等は殆ど研究の手を着けぬ。故に四書五經の中に、その來歷の徹底的に究明されたものは一部もない。支那の學者は畢竟本體の不明な經書の解釋に忙殺されて居るので、行先きを問ひ質さずに驀地（まつしぐら）に驅け出す車夫の態度と同樣である。

車夫はどうでもよい。經學者もまあよい。されど一國の存亡安危を背負ふ支那の政治家も、この著しい缺陷をもつて居るのは、困つたことと申さねばならぬ。しばらく外交方面を見渡しても、支那の政治家は今もその傳統的の以夷制夷政策を改めぬ。この政策も稀に用ふると小利を博することもあるが、元來が他力本願で之を常用すると大害を招く。そは宋代の歷史が明瞭に教示して居る。宋は女眞（金）の力を手頼（たより）に、契丹（遼）を滅ぼしたのはよいが、それも東の間で宋自身も女眞の爲に支那の北半を占領され、契丹の時よりも一層の壓迫を受けた。蒙古（元）が起り、女眞の勢が傾くと、宋は復た女眞を裏切り、蒙古と協力して女眞を倒したのはよいが、やがて宋自身も蒙古に併呑されて仕舞つた。かかる過去の苦き經驗も、未だ支那の政治家を十分に覺醒せしむるに足らぬ。目前の打算に明かで大局の利害に暗い支那の政治家は、

今も以夷制夷政策を固執する。之が爲に自國の開發を沮み、東亞の平和を害せしこと夥しい。

昨年末に最後の日本訪問をした孫文氏は、その前後に、日本はアジアの一國であることを打忘れ、白人の仲間に加はり、その手先となつて彼等同樣の侵略主義を行うた。白人をして東亞に跋扈せしめた一半の責は日本人が負はねばならぬ。支那に排日の起つたのも當然である。日本は今後その非を改め、支那と提携して白人に對抗せなければならぬ。日支の親善が東亞の平和の保障で、その日支の親善は日本人が現實に努むべき義務があるかの如き意見を述べて居る。日支の親善の必要なることは、吾が輩も孫文氏と同感である。ただ氏が過去に於て日本がアジアの一國たることを打忘れたとか、侵略主義を取つたとか、乃至白人の跋扈を助長したとかの非難は、誣にあらざれば妄と申さねばならぬ。過去に於て支那人こそアジア人たることを打忘れた樣であるが、我が日本人は終始アジア人たることを忘れなかつたのみでなく、更に自餘のアジア人をしてアジア人たることを自覺せしめた。そは日露戰役が明白に之を立證して居る。

四

日露戰役はアジア人にとつては實に破天荒の一大事件であつた。アジアの一小島國たる日本が、その幾十倍もある白人の大強國たる露國と開戰して、見事之を打破つたといふ事實は、全アジア人に、否アジア人以外の有色種族にさへ餘程深大なる感動を與へた。白人東漸以來絶え

ず、その不法な壓迫を受けながら、到底抵抗は不可能と斷念して居つた黄人が、彼等も努力如何によつては、隨分白人の壓迫から離脱することが出來る。否、更に一歩を進め、白人に對して、痛快なる復讐をも成し遂げ得らるるといふ實例が示されたのである。

日露開戰の少しく以前から、活動寫眞が次第に世間に持て囃されて來た。日露戰役はこの活動寫眞にとつて好箇の映寫物となつた。日露戰役の當時から爾後三四年間は、この戰役の活動寫眞が、アジア大陸到る處で空前の歡迎を受けた。印度人、ビルマ人、安南人、シャム人、支那人、南洋人等は、何れもこの活動寫眞を見物して年來の溜飲を下げた。活動寫眞によつて不様な露軍の敗走振りを見ると、自然彼等の腦裏に白人の威光が薄らいで行く。白人も不可敵でないと知ると、之に對する反抗心が頭を擡げてくる。かくてアジア人のアジアといふ新思想が東洋の天地に瀰漫して來た。

この新思想の勃興に對して、アジアに領土を有する白人一同に閉口した。今迄黄人と見縊り過ぎた白人は實際以上に黄人を警戒して、さてこそ黄禍説なども流行して來た。黄禍説は日清戰役の頃から世に現はれて來たが、その世界的になつたのは、日露戰役以後である。兎に角、日本人はアジア人のアジアといふ思想を喚起せしめて、全アジア人に覺醒の機を與へ、黄禍説が世界的になる程白人をして反省警戒する所あらしめた。從來傍若無人、氣儘氣隨であつた白人の侵略横暴も、日露戰役を境界として、一轉機と、一頓挫とを示して來た。

之に反して支那人の無智と淺慮とは、常に白人をして東亞に干渉と專横の手を振はしむべき

機會を與へた。日清戰役最後の三國干涉の如きその適例である。眞面目な儒者、忠實な憂國者として知られた、當時の兩江總督の張之洞すら、日本に割讓すべき臺灣を英露諸國に與へ、其援兵によつて日本を抑へる——速向英、俄（露國）、德（ドイツ）諸國。懇切籌商。優與利益。訂立密約。……許以重酬。絶不吝惜……保京城。安中國。惟有乞援強國一策——其の以夷制夷の傳統的政策を上奏して居るではないか。其因果は覿面で、滿洲は露國に、山東はドイツに、威海衞は英國の手に歸した。張之洞などは其時になつて、始めて迷夢を覺まし、俄に保種とか保教とか西力の增進を警戒憂慮して、國粹主義を高唱し始めても抑　晩矣（おそし）と言はねばならぬ。

李鴻章や張之洞の如き舊型の政治家は深く責むるに足らぬとしても、現在民國に時めく新式政治家も、三歲兒の魂百歲までの諺通り、今に以夷制夷政策を忘れぬ、かの山東問題の如き、當然日支兩國の間で解決せなければならぬ事件でも、或はパリに或はワシントンにと擔ぎ廻はり、最後に英米委員の面前に裁決を仰ぐが如き不體面な事情の下に解決して得々たる有樣でないか。アジア人のアジアといふ思想も主義も全然忘却して、絶えず東亞の問題に歐米人を引き入れ來たのは、實に支那の政治家でないか。

五

孫文氏に限らず、支那人はよく日本の侵略を攻擊して排日の題目にするが、その實日本は支

那に對して毫も侵略を行つて居らぬ。臺灣の割讓は當然のこととて問題にならぬ。臺灣を除くと、支那人が日本攻撃の的にした、若くば的にする、山東でも、旅大でも、日本は支那から獲得したものでない。列國の利權は多く口舌の間に、直接支那から獲得したが、日本のみは多大の人命金錢を擲つて、然も事實上支那の既に放棄して仕舞つた土地や利權を、露國やドイツから讓り受け又は繼承したのである。格別支那人から彼是非議さるべき筋合のものでない。勿論長い間には日本の對支政策にも感心出來ぬ點があつて、支那人の感情を害したこともあらう。されどこれとてその時代の趨勢やら支那の狀態やら、乃至日本としての立場を考慮したらば、一概に日本のみを咎め難いと思ふ。

日本人は早くから白禍の横溢に焦慮して居る。從つて日支親善の必要をも痛感して居る。最近數年間に亙る我が國の新聞雜誌を通覽しても、萬口一調に日支の親善を主張して、殆ど一人の異議を唱へる者がない。寧ろ日支親善に傾き過ぎずやと氣遣はれる位である。吾が輩も無論日支の親善を結構と思ふが、親善には相手が必要である、相手の實情をも考慮せずに、日本のみが親善に齷齪するのは、聊か餘計なことかとも思ふ。支那人の對日感情は近來可なり良好となつたと傳へられて居るが、併し關稅會議に日本の委員が支那の主張に贊成したからとて、直に親日の氣運が濃厚になり、刻下の騷亂に、我が在滿居留民保護の爲に出兵の噂があると、直に排日の運動を開始せんとするが如き、手を飜せば雲となり、手を覆せば雨となる樣な、輕薄にして打算的な親善ならば見合せたがよい。眞に日支の親善を成立せしめんには、先づ支那人

が覺醒して、過去の弊竇から擺脱することが必要である。

六

支那に政變の機が動くと、例によつて學生の妄動が始まり、兵士の掠奪が行はれる。昨今の新聞紙上にも彼等關係の記事が散見して居る。學生の妄動は民國以來殊に著しくなつた。山東問題に關する彼等の煽動暴擧を、米國のラインシュ公使やヂュウエー博士等は頗る善意に解して、新教育を受た支那學生の愛國的精神の發露と見做し、將來の支那は此等學生の示せる愛國的精神によつて隆興すべしと論じてゐる。我が國の新聞や雜誌の記者にも、かかる見解を公にした人が尠くなかつた。されど支那の學生が學業を外に國事に奔走（？）したのは、歷史上珍らしいことでない。然も學生の活動は、多くの場合その國家に幸せなかつた。殊に南宋時代の大學生の如きは、無責任な空論を唱へて當路の大臣を苦しめ、當局の怯懦は愈　彼等を增長させ天下を擧げて學生の世界と化し去り、その狀況は民國以來の有樣を髣髴たらしむるものがあつた。猾智に長ぜる宋末の宰相の賈似道は、奇貨利用すべしとて、學生を籠絡してその位置を固め、籠絡された學生は賈似道を謳歌して遂に宋祚を滅亡の淵に陷れた。當時の落首ともいふべき、

鼙鼓驚天動地來。九州赤子哭哀哀。廟堂不問平戎策。多把金錢媚秀才。

の一詩が、雄辯に之を證明して居る。

近時の支那學生の妄動をヂュウェー博士の如く、新に目覺めた支那青年の愛國的精神の發露と解すべきか、將た又支那に古來有勝な學生（處士）の横議の一例、從つて淺慮と盲信とに滿てる支那人の團體的行動の一例と解すべきか。その何れが正當な解釋であるかは一の疑問と思ふ。

七

支那の軍隊も古今を通じての厄介物である。それでも漢時代には、胡兵五而當漢兵一など稱せられて、支那の兵士も相當勇敢で素質も好かつた。唐の中世に兵農分離して、兵士を雇募することになつて以來、その素質は日一日と低下して、「遂に好鐵不打釘。好人不當兵」——滿足な人間は軍隊に入るべきでないとの意味——とか「鐵到了釘。人到了兵」——零落の眞底に陷る意味——とかいふ諺まで出來、兵士といへば人間としての最劣等の屑物を意味するに至つた。北宋の歐陽脩は當時の軍隊に就いて、「不足以威於外。而敢驕於内」——外寇を防ぐことが出來ぬ弱い軍隊、されど國民だけを虐げることが出來る強い軍隊——と嘆息して居るが、その嘆息はその儘民國今日の軍隊に適用することが出來る。いかにも民國の軍隊は裝甲タンクをも使へば、飛行機をも用ゐて居る。その隊制や武器からいへば、立派に二十世紀の軍隊である

が、その精神や素質からいへば、九百年前その儘の軍隊といはねばならぬ。かかる外形と内質との懸隔は、必ずしも軍隊の一方面のみに限らぬ様に思ふ。そこに民國の最大弱點がないであらうか。吾が輩は近年喧傳されつつある支那人の覺醒の眞實ならんことを切望するものであるが、眞實の覺醒は今少しく根本的精神的であつてほしい。かかる根本的精神的の覺醒こそ、日支兩國共通の一大幸福と思ふ。（大正十四年十二月六日）

（大正十五年一月『外交時報』第四十三卷第一號所載）

青空文庫情報

底本：「桑原隲藏全集　第一卷　東洋史説苑」岩波書店
　　1968（昭和43）年2月13日初版発行
初出：「外交時報　第四十三巻第一号」
　　1926（大正15）年1月
入力：はまなかひとし
校正：米田進
2003年4月1日作成
2004年2月21日修正
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

支那猥談

桑原隲藏

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/